

第6号 2000(平成12)年10月31日発行

# 沖縄法政研究所報

沖縄国際大学沖縄法政研究所 所長 山城 将 美

〒901-2701 宜野湾市宜野湾2丁目6番1号 電話098-892-1111 内線2901~2902 直通098-893-9023

## 初めに言葉があった



垣 花 豊 順 所員 (法学部教授)

「初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。」  
 新約聖書のヨハネによる福音書は、このように「初めに言葉があった」  
 で始まる。この「言葉」はギリシャ語「ロゴス」の日本語訳である。「ロ  
 ゴス」は「言葉」と「理性」の両方を意味する。創世記によると地球は神の言葉によって創られ  
 たから(第一章)、地球は神の理性の現れだということになる。言葉はものごとを創造し、将来の  
 進路を決定する神の働きをする。日常生活や政治の世界でも、言葉がその時だけでなく、時代を  
 経て人を動かし、物事を創設し、進路を決定する事例はよくあることである。言葉をおろそかに  
 してはならないのである

今年の7月21日から23日までの3日間、サミット(先進8カ国首脳会談)が沖縄で開催され  
 た。離島県で米軍基地の密集する沖縄でサミットを開催することについては、外務省を含め反対  
 の声が強かった。反対の声を押し切って、沖縄で開催することを決定したのは、小渕恵三前総理  
 大臣であるが、小渕を決断させたのは1945年(昭和20年)6月13日午前1時海軍壕で自決した  
 海軍中将大田實の打った電報「沖縄県民カク戦エリ。県民ニ対シ、後世特別ノ御高配ヲ賜ワラン  
 コトヲ」であった。学生時代から度々沖縄を訪れていた小渕は、米軍に囲まれ、愛する妻と11人  
 の子供を残して自決しなければならない極限の状況下で、軍人でありながら県民のことを慮った  
 大田の電報に感動し、その要請に応えるために沖縄で開催することを決意したのである。

1941年(昭和16年)12月7日(日本時間では8日)早朝、日本軍のハワイ州真珠湾攻撃で、  
 アメリカと日本は太平洋戦争に突入した。フランクリン・D・ルーズベルト大統領は1942年2月  
 19日大統領行政命令九〇六六号を發布し、米国西海岸に住む日系米国民12万人を1946年ま  
 で強制収容所に収容した。これは軍事上の必要のためなされたのではなく、人種差別と偏見に基  
 づく強制収容であった。日系米市民と同じように敵性市民であるドイツ、イタリア系の米国民  
 は強制収容されなかったからである。勤勉で善良な日系米国民は先祖が日本人だという理由だ  
 けで、刑務所の囚人のように銃をもったガードマンの監視下におかれ、3年余にわたって屈辱的  
 な生活を強いられて、苦勞して築いた多くの財産を失った

米国政府は戦争終結後43年を経た1988年「強制収容補償法」を制定して、日系米国民被  
 収容者に謝罪し補償を支払った。このように戦時中、公権力によってなされた人権や財産の侵害  
 に対して補償がなされたのは、アブラハム・リンカーン大統領の遺した言葉「人民の人民による